

令和6年度 我孫子中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

【国語】

○令和6年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方に関する事項」の2つは、県平均値を大きく上回っている。授業内でのグループワークを増やし、教え合う機会を多く設けてきた。その成果が今回の数値に表れている。

II. 改善目標

文章を読み解く力を育て、内容を理解して共有できるようにする。

III. 改善方策

普段の授業の中で、ワークシートなどを使いながら、個々で読み取る時間を積極的に設け、問題を共有して教え合う時間を多く設定していく。

IV. 検証方法

文章の構成を捉え、根拠となる部分を探し、説明させ、読み取れているか確認する。ICTを活用し、共有方法の効率化を図る。

○令和6年度、令和5年度、令和4年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

一昨年、昨年に比べて、多くの項目の正答率が上がっていることが読み取れる。特に「話すこと・聞くこと」の数値が伸びており、授業内での教え合いや話す機会を増やしてきた成果だと考える。「読むこと」の数値が3年間で最低であり、文章にふれる機会を増やす必要がある。

II. 改善目標

文章を読み解く力、根拠を明確にして話す力、批評しながら話を聞く力を育てる。

III. 改善方策

個々で問題文を読み解く時間を作り、その問題を共有して教え合う時間を多く設定していく。読書週間が身に付く課題を設定し、朝の読書時間と連携させた課題を与え、評価する。

IV. 検証方法

文章の構成を捉え、根拠となる部分を説明させ、読みとれているか確認し、評価する。

【数学】

○令和6年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

基本的に平均を上回る数値だが、「記述式」について全国の平均を下回っている。授業の中で教え合い、話す機会は増えているが、数学的な言葉を使って説明することが未熟であり、友達間での説明で終わり、問題を解く力が定着していない部分が見られる。

II. 改善目標

数学的な言葉を使い、問題を解く方法を説明できるような力をつける。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設ける。また、数学の学習と日常生活や社会活動とを関連付けて考えさせたり、数学の便利さを実感させたり、数学的な考え方を学級活動に取り入れたりする。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークの会話の内容を評価し、様々な意見が出ているか確認する。

○令和6年度、令和5年度、令和4年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

全国平均を上回る数値が多いが、学校内の数値はここ3年で下がってきている。特に「記述」に関する数値が低く、数学的な言葉を使って説明することが未熟であり、友達間での説明で終わってしまい、学習で得た知識を生かして問題を解く力が定着していない部分が見られる。

II. 改善目標

1つの問題に対しても、様々な視点で考えられるような思考力を育てる。

数学的な言葉を使い、問題を解く方法を説明できるような力をつける。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設け、わからない事を友達に聞きやすい環境をつくる。問題を解く過程を説明できるような機会をつくる。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークを行い様々な意見が出るようになっていくかを確認していく。授業内の映像を撮影し、グループごとの動きを検証する。席順にとらわれず、数学の授業用の班編成を作って授業を実施する。